

令和2年度 あしかりこども園 自己評価



1. 保育方針

愛情につつまれながら安心して生きる力を育む養護と教育

2. 保育目標

① あ 明るく	② し しっかり	③ の のびのびと生きる	④ こ 心豊かな子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔あふれる子ども ・心身共に健康でたくましい子ども ・みんなと力を合わせてやりとげられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な挨拶と返事ができる子ども ・最後まで一生懸命取り組める子ども ・よく聞き、自分の気持ちを伝えられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の事は自分でできる子ども ・自然に親しみ感謝する子ども ・なんでもよく食べ、力いっぱい遊べる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を通して郷土を愛する子ども ・優しく思いやりのある子ども ・個性豊かに自分を表現できる子ども

3. 重点目標と評価

重点的に取り組んだ目標	評価
<p>【園児の衛生・健康管理について】</p> <p>園児が成長していく上で、心身ともに健康であるべきと考え、発育の状態、身体の衛生、正しい食生活、健康的な成長ができていくことを把握していく。家庭生活を送る上で、適切な養育、健康管理ができるよう発信する。感染症予防の徹底を行い、園児、保護者、職員の健康を守っていく。</p>	<p>年2回の健康診断（内科医・歯科医）、尿検査、毎月1回の発育測定・衛生検査、2歳児から年長児までの年2回の視力・聴力検査結果をもとに園児の健康や成育の記録を家庭と共有している。虫歯、視力低下、肥満気味など心配な結果に関しては保護者へ通知し改善を促すが、改善する意思が見受けられない家庭もあり、保護者の意識向上につながる発信の仕方に課題が残る。</p> <p>感染症予防に対しては、確実な情報収集と実施の徹底が必要不可欠で、園全体での換気・消毒などの時間を設定、記録することで確実に行うことができている。そのような中でも様々な情報の変化、保育施設ならではの予防対策の限界が課題となる。（三密回避の限界、園児同士、職員とのスキンシップやふれあいなど）</p>

<p>【職員の資質向上に努める】</p> <p>これまでの研修や、園内研修で自己研鑽に加え、園や保育教諭自身の教育・保育を見つめるという観点から、外部講師を招いて、意見をいただき学びの機会を設ける。</p>	<p>今期は目標にしていた外部講師を招いての職員研修が、感染症拡大で自粛せざるを得ない状況となり特別支援についての1回のみとなった。反面、各研修会の多くがオンラインでの開催となったため、本来なら園外で1名のみの受講しかできなかったところを、複数の職員が園内にて受講でき研修の機会が増えた。</p> <p>研修を受けた職員同士が学びを共有し、個人の資質向上が園全体の資質向上につながることを更に期待したい。</p>
--	--

4. 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	取組状況	評価
教育・保育内容について	<p>◎新型コロナウイルス感染症についての正しい知識を身につけられるよう発信していく。</p> <p>◎通常保育だけでなく、その時、その時期にしかできない行事や体験を通して、見る・触る・感じる・気づくなどの、心の成長や感覚への働きかけを行い、発達を促していく。</p>	<p>○感染者に対する差別や偏見が起きないために、絵本や分かりやすい言葉で伝えていった。職員が正しい知識を習得し、保護者への周知と理解を求める。</p> <p>○感染予防策を取りながら、体験でこそ感じる教育保育内容を取り入れていく。 (散歩・水遊び・ボディペインティング・クッキング・移動動物園など)</p>	<p>・子どもながらに現在の危機を感じているようだったが、保育教諭が伝えていくことを、純粋に受け止める様子が伺えた。</p> <p>・行事や保育の中で大切なものと位置づけてきた「体験」や「人とのかかわりの中で感じること」が園生活の中で制限されることとなるが、状況を見極めながら行った。これまで当たり前に行っていた活動や、園児の取り組む姿の一つ一つが貴重な一瞬であることを実感する機会にもなる。</p>
衛生管理について	<p>◎手洗い・消毒・咳エチケットなどの年齢に応じた感染予防対策、衛生面の習慣づけを指導していく。</p>	<p>○健康被害に十分に気を付け、年齢に応じマスク着用、食事の仕方、手洗い消毒などの習慣づけを指導した。</p>	<p>・混乱の中で正しい情報や対応を見極めることは容易ではないが、保護者の理解と協力で対応ができた。</p>

保護者への発信	<p>◎コロナ禍で園舎内に入っている行事が、中止や縮小を余儀なくされている中、園児の園生活の様子を写真や動画を使って、家庭へ発信していく。</p> <p>◎外出自粛を余儀なくされるため、家庭でできる遊びの提供をお便りで知らせていく。</p>	<p>○園生活を動画で配信し、子どもの様子を保護者へ伝えて、成長を実感できるようにする。</p> <p>○連絡帳や伝言ボードでその日の活動、園児の様子を伝え、日々の姿を伝えていく。</p> <p>○子ども達が積極的に保護者を誘うように、園で紹介した後にお便りを配布し、関心を高める。</p>	<p>・コロナ禍での園の判断には保護者が寛容に理解を示しているが、園生活での様子を実際に見ることによって成長を感じられるので、現在の発信では充分とは言えない。</p> <p>・配信の回数が少ない。</p> <p>・身近な材料でできるおもちゃ作りや、親子で楽しむ運動遊びなどを紹介し、おうち時間の充実につながっていたようだった。</p>
---------	--	---	---

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な内容
保護者への発信	<p>今や、ICT やアプリの活用は必須である。大部分を占める若い世代の保護者が、園からの情報をいかに目にし、伝わるかが課題となる。また、保育生活の一部を写真や動画で配信をすることで、感染予防対策として立ち入りを制限している</p>
人権擁護について学ぶ	<p>園児とのかかわりの中で、子ども一人ひとりの人権を尊重し、教育・保育ができているかを自身で振り返る。反省点は改善をしていく機会となり、より良いかかわりとなって、教育・保育の質の向上につながる。すなわち、園児一人ひとりが尊重され、自己肯定感を育てていくこととなる。</p>

6. 園の運営について

コロナ禍での教育・保育はこれまで以上に細部にわたって配慮が必要であると考えます。現時点での対応がマンネリ化することなく、常に正しい情報の入手を心がけ対応をお願いします。また、近年大きな災害が発生し、避難弱者である園児を安全に避難させ、守ることは園の責務であることから、職員の意識の向上に努めてください。

マスク着用をしながらも、職員が園児に笑顔で声をかけ、心に寄り添っている姿は、保護者の方にも十分に伝わっていることと思います。みんなで力を合わせ乗り切りましょう。

令和3年6月19日
 社会福祉法人 芦刈福祉会
 理事 古川 恭子

7. 財務状況

令和2年度、あしかりこども園の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも正確であり園の運営、財政管理は適正に行われていると認められます。

令和3年6月19日

社会福祉法人 芦刈福祉会

監事 北島 信良